

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-142	24-042	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門 三浦克之
題名 (原題/訳)		
Alcohol consumption and its correlation with medical conditions: a UK Biobank study アルコール摂取と病状との相関：英国バイオバンク研究		
執筆者		
Mayer CS, Fontelo P.		
掲載誌		
Front Public Health. 2024 May 22;12:1294492. doi: 10.3389/fpubh.2024.1294492.		
キーワード		PMID
UK Biobank、アルコール、アルコールタイプ、用量反応、統計的モーダル解析		38841662
要 旨		
<p>背景： アルコール摂取は多くの健康状態の発生と関連している。本研究では、ライフスタイルに関する質問票や診断データなど、英国における大規模な生物医学データベースである UK Biobank のデータを解析し、様々な疾患と飲酒の種類や量との関連を調べた。</p> <p>方法： 1 週間のアルコール摂取量、アルコールの種類と 8 つの疾患の発症率との関連を検討した。これら 8 つの疾患と診断されたアルコールタイプ別の飲酒者数を算出した。アルコール摂取が各疾患の有病率に及ぼす影響を評価するため、対数ロジスティック回帰モデルを用いて各アルコール種類について用量反応モデルを作成した。</p> <p>結果： UK バイオバンクの参加者 502,390 人のうち、344,410 人 (68.55%) がアルコールを摂取していた。消費されたアルコールは、赤ワイン (228,439 人)、白ワイン (188,811 人)、ビール (182,648 人)、蒸留酒 (129,418 人)、酒精強化ワイン (34,598 人) であった。アルコール飲料の種類別の男女比については、ビールは、男性が 78%であったが、他の消費は男女で大きな差はなかった。毎週アルコールを飲むと回答し参加者のうち、247,649 人が 2 種類以上を消費していた。アルコールの量が増えるにつれて、疾患の有病率が増加することが観察された。特に、慢性閉塞性肺疾患、肝硬変、高血圧、胃炎、2 型糖尿病において顕著であった。ビール消費者はほとんどの疾患で有病率が高く、酒精強化ワインは最も発症率の増加が高かった。白ワインだけが急性心筋梗塞の罹患率が減少した。多くの疾患の有病率はアルコール摂取者で高く、特に高血圧では 33.8%であったのに対し、非飲酒者では 28.6%であった。</p> <p>結論： 多くの疾患については、非飲酒者においても罹患しているが、飲酒量が増えるにつれて、研究対象とした疾患の多くで有病率が増加した。これは特にビールと酒精強化ワインの消費者に当てはまったが、程度は低いものの、蒸留酒、赤ワイン、白ワインの消費者にも当てはまった。</p>		